

GRAND CYCLE TOKYO 実行委員会（第 11 回）

議事要旨

日時：令和 6 年 6 月 26 日(水)15 時 00 分から

方式：第一本庁舎 19 階 19B 会議室及びオンライン

1. 開会

2. 審議事項

(1) 令和 5 年度実行委員会決算について

①収入の部

・ 予算額 3,187,400,000 円

・ 決算額 2,539,113,714 円

内訳：東京都負担金 2,470,379,887 円

参加料 58,668,500 円

協賛金 9,900,000 円

雑収入 165,327 円

②支出の部

・ 委託費（実施運営費）等 2,539,113,714 円

内訳：委託料 2,534,458,673 円

そのほか会場使用料、事務費、補償費は資料を参照

・ 主な委託料内訳

令和 5 年度 GRAND CYCLE TOKYO 多摩地域における自転車ロードレース等実施計画策定支援及び運営委託 約 15.7 億円

マルチスポーツ、多摩自転車イベント等実施計画策定支援及び運営委託 約 4.8 億円

レインボーライド実施計画策定支援及び運営委託 約 4.3 億円

交通規制看板設置等首都高関連契約 6 件 約 0.5 億円

【委員による質問】

(質問)

- ・雑収入は何か。

(事務局より回答)

- ・レインボーライドのグッズ等の売り上げである。

(質問)

- ・差金は、繰り越しになるのか。

(事務局より回答)

- ・年末度に差金として負担金の一部を戻入している。単年度会計のため、繰り越して運用していくことはない。

(質問)

- ・THE ROAD RACE TOKYO にかかる費用に関し、算出のプロセスや費用項目について、お伺いしたい。

(事務局より回答)

- ・THE ROAD RACE TOKYO は、市街地を長距離にわたり通過するラインレースであり、他の大会に比べ安全資機材の量が多い。また、市街地に多くの住民が住んでいるため、住民がコースに入っていないよう、警備員の人件費がかかるとともに、広域にわたる事前の告知が必要。

【異議なし】

3. 報告事項

(1) 第2回「THE ROAD RACE TOKYO」受託者の決定について

- ・6月6日(木)第2回 THE ROAD RACE TOKYO の実施計画策定支援及び運営委託の委託先選定委員会を実施した。
- ・提案方式は企画提案方式。委員6名による審査の結果、評価点221.8点の株式会社読売広告社が選定された。
- ・選定理由には、交通規制時間をできるだけ短縮する必要がある中で、早期に規制解除ができる可能性が高い計画が提案されていたこと、住民への交通規制広報についても様々な告知計画がされていたこと、ブランディング戦略がしっかりと計画されていたこと、他の国内外レーススケジュールも把握した上での具体的な選手招聘計画がされていたこと等が挙げ

られる。

【質問なし】

(2) 第2回 THE ROAD RACE TOKYO UCI レース公認の申請について

- ・第2回 THE ROAD RACE TOKYO について、国際自転車競技連合（UCI）へ公認申請を現に行っている。5月下旬頃、実行委員会から日本自転車競技連盟に申請を行い、6月上旬頃に UCI に申請。9月下旬頃に承認予定である。
- ・公認の申請をすることにより、集客力のある有力選手の出場を確保しやすくなり、レースの魅力を高めることができる。
- ・UCI の公認レースのグレードは大きく分けて4つ。グレードが上がるほどハイレベルな選手の招聘が可能である。
- ・UCI 公認レースに出場した選手は順位に応じて、UCI ポイントを得ることができる。このポイントは世界選手権やオリンピックなどの出場獲得にも繋がる。
- ・今回の申請クラスは、上から3番目 UCI コンチネンタルサーキット class 1 である。

【委員による質問】

(質問)

- ・UCI コンチネンタルサーキット class 1 への申請にあたりコストはいくらかかるのか。

(事務局より回答)

- ・選手への賞金総額と登録料に規定がある。

(質問)

- ・THE ROAD RACE TOKYO の賞金との対比はどうなのか。

(事務局より回答)

- ・第1回大会の賞金は、UCI class1 の賞金を上回っている。

(質問)

- ・グレードが上がれば、招聘選手のレベルはどうなるのか。

(事務局より回答)

- ・クラスごとに招聘の要件が決まっており、招聘しなければいけないレベルがある。最上段のクラス UCI ワールドツアーであればワールドチームと呼ばれている世界最高峰のレベル・ランキングが求められる。

(質問)

- ・将来的に、グレードを上げることでより高度な運営方法が求められ、それに伴い経費が増える可能性はあるのか。また、グレードを上げると有名選手を呼ぶことができるメリットがあるが、一方、日本で若手選手といった他の選手が出場しにくくなったりはしないのか。

(事務局より回答)

- ・グレードが上がれば、運営面や競技レベル、安全面強化をさらに求められるため、金額は加算される可能性がある。class 2 であれば地域チーム、クラブチーム、学生のチームは出場することができるが、class1 以上では、出場することができない。

【委員によるコメント】

(コメント)

- ・このレースに何を目指していくのか、トップ選手が参加するレースを商業的にも成り立つ大会にしていくのか、或いは日本のサイクリストに出場の機会を与える大会にするのかというのは二律背反することがあるだろう。このレースは何をを目指していくのかをしっかりと議論しながら進めないといけないと思う。
- ・どこのレベルを目指していくのか、国内レース全体において本大会をどのように位置づけていくのか、また、自転車競技の認知度が非常に高いヨーロッパと比較し、日本での認知度はそれほど高くない中で、評価を高めていくにはどのように取り組むべきかなど、幅広い観点から議論を進めていくべきである。
- ・最終的に最上段のグレードを目指すとなった場合、そもそもヨーロッパのトップチームが日本に来るのかという問題があるだろう。スケジュールや渡航費、国内既存レースとのチームの奪い合いなどがあり、トップチームを招聘するのは経験上困難な可能性もある。その辺りも考慮していくといいだろう。

【事務局によるコメント】

(コメント)

- ・課題を踏まえ、安全に尚且つ良いレースの大会の実績を重ねていく。大会運営をより良くしていくとともに、自転車のレースの認知度を高めながら、課題も平行して議論していきたい。

(3) 令和6年度アンバサダー就任・PR番組の放送について

- ・アンバサダーには、武井壮さん、稲村亜美さんに加え、小島よしおさん、神田愛花さん、团长安田さん3名を新たに加え、より幅広い訴求対象へのPRを強化し、参加者増加、イベント認知度向上を図る。
- ・GCT事業のPRとして、フジテレビ地上波で「とうきょう自転車さんぽ」を7月2日～9月24日の間、毎週火曜日21時54分～22時00分に放送する。
- ・番組では、自転車で東京の街を散歩しながらレインボーライドのポイントである坂・水・橋をキーワードに新たな魅力を発信。また、小島よしおさんによる自転車安全啓発コーナーなども放送する。
- ・放送後は「FNNプライムオンライン」で番組を配信する。

【質問なし】

(4) レインボーライドの参加者募集について

①開催日程

- ・12月1日(日)

②距離

- ・レインボーロングは昨年より約3km延長し、約35kmとする。レインボーミドルとショートは昨年度と同様の距離である。

③参加定員

- ・昨年より1,000名増やし、6,000名とする。

④申込方法

- ・インターネットからで、一般枠が7月19日(金)から9月16日(月)までで申し込み多数の場合は抽選。
- ・VIP枠は7月26日(金)から申し込み開始で先着100名。一般枠に港区・江東区の地元優先枠を1,000名設定。

⑤使用可能な自転車

- ・多段ギア付きもしくは電動アシスト付き自転車。(レンタサイクルの準備あり。)

【委員によるコメント】

(コメント)

- ・海外からの参加者に向けての対応を手厚くしてほしい。

【事務局によるコメント】

(コメント)

- ・インバウンド参加者増に向け、適切に対応していく。

4. その他

(1) 今後の実行委員会のスケジュール

① 8月下旬頃

- ・レインボーライドの首都高関連契約について、交通規制等の内容について

② 11月上旬

- ・レインボーライド・マルチスポーツの開催概要について

③ 来年1月下旬

- ・レインボーライド・マルチスポーツの開催報告について

④ 3月下旬

- ・年度末及び来年度に向けた内容についての議論

【質問なし】

5. 閉会